

Agricultural Museum NEWS

2015
NO. 37

宮崎大学農学部附属
農業博物館ニュース
Agricultural
Museum NEWS
No. 37 2015

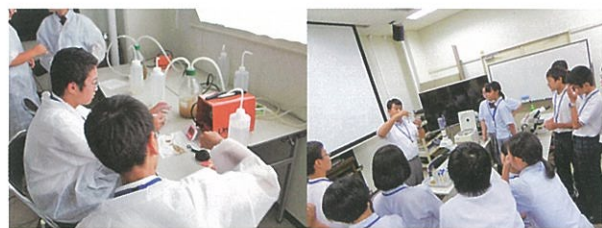
坂元棚田へ行こう!

日本の棚田百選
平成11年6月27日選定【農林水産省】
重要文化的景観
酒谷の坂元棚田及び農山村景観
平成25年10月17日選定【文化庁】

宮崎市から国道220号線、油津から国道222号線ルートで約110分
宮崎市から宮崎自動車道で田野ICへ
国道28号線から既経由ルートで約100分
都城から国道222号線ルートで約45分
日南市油津周辺から約40分
日南市既経由周辺から約20分

農業博物館インフォメーション

JSPS ひらめき☆ときめきサイエンス ~KAKENHI~
土の粒子から農業や環境の歴史を科学する



開催日 2015年7月29日(水) 参加者 中学生20名

身近な土や遺跡の土に含まれる粒子を取りだし、顕微鏡で観察をし、分析方法の一部を実際に体験してもらいながら、歴史を科学する研究方法について学んでもらいました。

平成27年度宮崎大学きずサマースクール
農業博物館で遊ぼう



開催日 2015年8月19日(水) 参加者 小学生20名

今回は、身近な植物や昆虫をはじめ、魚の透明標本や海の生きものなど、子どもたちに『見て・触って』学んでもらうと共に顕微鏡でミクロの世界も観察してもらいました。

開催のお知らせ 第11回宮崎大学清花祭(きよかさい)

日程 2015年11月14日(土)~11月15日(日) 2日間
会場 宮崎大学木花キャンパス(宮崎市学園木花台西1-1)

当館では、「農」と「食」と「健康」をテーマにしたパネル展示「日本の食と伝統を支えてきた米や雑穀について学ぶ」のほか、児童・生徒を対象とした科学・工作教室を開催いたします。この機会に是非、お立ち寄り下さい。

大学へのアクセス・利用案内

**宮崎大学農学部
附属農業博物館**

開館 月~金 [9:00~16:00]
※土日祝・年末年始は除く
入館料 無料

- BUS**
宮崎駅より40分
- JR**
日南線木花駅下車
徒歩30分
- TAXI**
宮崎駅より25分、宮崎空港より15分

発行所 宮崎大学農学部附属農業博物館 〒889-2192 宮崎県宮崎市学園木花台西1-1
発行日 2015/10/30 TEL/FAX 0985-58-2898



平成27年度企画展示
坂元棚田誕生の秘密と地域創生への取り組み
— 近代化遺産としての坂元棚田 —



宮崎大学 農学部
UNIVERSITY OF MIYAZAKI
宮崎大学農学部 附属農業博物館
HP:<http://www.agr.miyazaki-u.ac.jp/~museum/>

坂元棚田誕生の秘密と地域創生への取り組み - 近代化遺産としての坂元棚田 -

本年度の企画展示は、重要文化的景観や日本の棚田百選に選定されている宮崎県日南市の坂元棚田を紹介しています。坂元棚田の特徴や誕生秘話、棚田でのコメづくりを通じた地域づくり活動など、ジオラマや映像も使って紹介していますので、是非一度ご覧になってください。

坂元棚田の特徴とその秘密

棚田とは？

山や谷間などの傾斜したところに、等高線に沿って作られた段々に連なる水田のことを棚田といいます。学術的には、農林水産省が、傾斜 20 分の 1 水平に 20m 進んだとき、1m ほど高くなる傾斜) 以上の土地にある水田を「棚田」と表していることから、この定義が用いられています。

宮崎県の棚田百選選定地



- 1 石垣の村 (ひのかげ (日之影町))
- 2 尾戸の口 (おど (高千穂町))
- 3 栃又 (たかちほ (高千穂町))
- 4 徳別当 (とくべつとう (高千穂町))
- 5 下の原 (ごかせ (五ヶ瀬町))
- 6 鳥の巣 (ひそえ (五ヶ瀬町))
- 7 日蔭 (ごかせ (五ヶ瀬町))
- 8 向江棚田 (にしめら (西米良町))
- 9 春の平棚田 (にしめら (西米良町))
- 10 真幸棚田 (まさき (えびの町))
- 11 坂元棚田 (にびん (日南市))

水源となる二つの谷

半四郎窯谷 37.2ha
赤ナメラ谷 38.9ha



石積の魅力

平均 37 m

形の魅力

長方形区画の水田がきれいに並んでいます。これが、坂元棚田の魅力の1つ！水田面積の大きさは、傾斜の大きさと少し違います。傾斜の緩いところは約 500m²(5a)、急なところは約 300m²(3a)。全部で 205 個の農地区画があり、そのうち水田が 110 区画となっています。これは坂元棚田が、明治時代に西欧の測量・農業土木技術を身につけた技術者によって計画され、設計された棚田だからです。大正 14 年に作成された設計書をもとに、昭和 3 年から 8 年の間に地域の人も手伝いながら、工事によって作られたのがこの棚田なのです。設計する際に、馬を使って効率よくコメづくりができるように考えられたため、棚田としては珍しく長方形の水田が整然と並ぶ形になったのです。

水の魅力

棚田周辺の森林は、年間降水量が 3 キーメートルを超える多雨地帯にあり、鉄肥杉(オビスギ)と呼ばれる良質な杉材が産出されることで知られています。約 400 年も前から管理されてきた鉄肥杉の山林は、営林の場であるとともに、棚田に豊富な水をもたらします。この大量の水を育てているのは、半四郎窯谷(37.2ha)と赤ナメラ谷(38.9ha)と呼ばれる2つの谷です。隣接するこれらの水源から棚田までの直線距離は 750m。途中で水が止まってしまうように、しかも流れの勢いが激しくなりすぎないように、上手に水の流れを制御しながら 1.6 km にもわたる長い長い道のりを、流れていく水路は、まさに棚田の生命線。

道の魅力

坂元棚田の魅力の1つは、急な傾斜をまっすぐ下から上まで伸びる道。このようなまっすぐな道は棚田としてはとても珍しいものです。これは、馬を使って農作業をするように作られているため、道から他の水田を通ることなく、直接自分の水田に馬を連れて来られるように、それぞれの水田が道と接するように考えられています。傾斜は、水平に何m進む毎に高さが1m変化するかで表されます。坂元棚田では、大体6~7m毎に1m高さが変化する急傾斜地。道路標識などで表される勾配で換算すると15%になります。(自動車のための道路は、通常2~12%の勾配です。)馬の通行のための道なので、こんな急傾斜でも大丈夫だったのです。

人の魅力



松井梅次

作った人

大正時代、坂元地区を調査し、棚田を設計したのは宮崎県耕地整理課の松井梅次さんという技手(技術者)です。松井さんは先進的な西欧の耕地整理学(農業土木学)を学び、習得した技術を使って、綿密に測量し、水源となる谷の水流量(雨量や逕流量)を調査し、谷から棚田までの水路を設計しました。さらに、水田区画や道路の設計、工事計画や経費の計算までして、設計書を書き上げたのです。坂元棚田は松井さんが作り上げたと言ってもいいほどの功労者なのです。松井さんは、明治45年に宮崎県庁に入庁して以来、昭和15年までの28年間、技術者として主に南那珂郡(現在の日南地域)の耕地整理(農地整備)に尽くした方だったようです。



上野英三郎

考えた人

松井さんが学んだとされる耕地整理学(農業土木学)は、東京帝国大学の教授・上野英三郎博士が作り上げた技術・学問です。明治38年に著した「耕地整理講義」は、農地を整備し、かんがい・排水施設を作り、地域環境を整備する技術を体系的にまとめた教科書として、各地の技術講習会で使用され、明治・大正・昭和初期の技術者の養成に大きく貢献しました。坂元棚田で見ることができている特徴の多くは、「耕地整理講義」を通して当時の技術者に伝えられたのです。上野博士は、明治4年三重県の生まれ。明治44年、東京帝国大学に創設された農業工学講座の初代教授に。坂元棚田は、上野博士が考えた当時最先端の農地の形を、上野博士が教えた技術によって現実の形にしたものなのです。

棚田の魅力

日本の棚田百選「坂元棚田」

中山間地域に広く分布する棚田は、特色あるお米の生産の場としてのみならず、急峻な地形を巧みに利用した農業生産活動を通じて、国土保全、環境保全、生物多様性の保全、農村の美しい原風景の形成、地域の伝統・文化の継承など多面的な機能を発揮しています。このような棚田を保全し、保全のための整備活動を推進していくために農林水産省が1999年7月26日に134地区を「日本の棚田百選」として認定しました。全国的にも珍しい歴史を持ちつつ美しい景観を持つ棚田として、坂元棚田が選定されました。

重要文化的景観「酒谷の坂元棚田および農山村景観」

平成25年10月17日、坂元地区の棚田と集落、その周辺の鉄肥杉林の景観が、国の重要文化的景観に選定されました。文化的景観とは、棚田や里山のような、人々の生活や風土に深く結びついた地域特有の景観のことをいいます。その中でも特に重要なものは、文部科学大臣によって「重要文化的景観」として選定されます。近代土木遺産的な価値を有し、かつ造成時より途切れることなく営まれたコメづくりを通して形成された地域文化が認められての選定となりました。

農業土木学会・上野賞「棚田整備を通じた地域整備と都市と農村の交流」

平成18年5月に社団法人農業土木学会より上野賞を授けられました。坂元棚田にも関係の深い、東京帝国大学教授の上野英三郎博士が創設した農業土木学。農業土木の研究者や技術者による学会が、上野先生を忍んで昭和46年に農業土木事業の発展に尽くした事業に授与する賞として設けたのが上野賞です。耕地整理当時の良さを残しつつも、コメづくりを通して地域づくりを続けていくための棚田保全整備と、その取り組み・姿勢が評価されました。



地相改正



耕地整理法公布

上野英三郎氏「耕地整理講義」刊行

耕地整理法の大改正

宮崎県耕地整理奨励規程制定

東京帝国大学に農業工学講座創設
上野英三郎氏 教授就任

宮崎県耕地整理課に松井梅次氏入庁

関東大震災

「坂元耕地整理組合設計書」完成
上野英三郎氏急死
飼いのハチが渋谷駅で話題に

工事着工「坂元耕地整理組合」発足

工事完了

順次耕作開始
忠犬ハチ公像建立

日本の棚田百選

棚田オーナー制度開始

全国棚田サミット開催
上野賞(農業土木学会)受賞

酒谷地区むらおこし推進協議会設立

文化庁重要文化的景観選定